

## 平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

## 採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大阪大学	整理番号	1-2-045
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	進化する理学教育プログラム		
申請単位	学部単位		
申請担当者	下田 正		
<p>(取組の概要)</p> <p>学生の質的低下と専門分野間のボーダーレス化に対応するために、理学部では平成 11 年度より理学教育の検討を行い、理学部の全学生は数学、物理、化学、生物のすべての基礎素養を持たなければならない(理学ミニマムカリキュラム)との考えに至った。4 年の検討を経て実施された新しい理学教育カリキュラムは、①全学科の 1 年生に数学、物理、化学、生物の講義と実験を必修科目として強制する「定食方式」の科目(専門に関する教養を養う)、②“研究室で遊ぼう”木曜企画(学科単位の少人数ゼミ:専門への意欲を高める)、③250 科目からなる自由に選択が出来る「カフェテリア方式」の科目(好奇心に沿って自由に教養を広げる)という 3 種類の教養科目の基盤の上に、緩やかに分化する専門教育科目(全面的に改訂)や社会との関連の科目を置き、広い視野に立ち柔軟な発想の出来る人材の育成を目指している。また、4 年間の教育改革の努力の過程から、カリキュラムを常時検討する教員組織が育ち改善に努力している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組では、大阪大学理学部における学士課程教育において、教養教育と専門教育を連続的につなげ、4 年間一貫した教育をするための種々の工夫がなされています。特に目新しさは感じられないものの、着実な努力に基づく成果が積み上げられており、その努力と実績は高く評価できます。</p> <p>教養教育の改革は、10 年ほど前から全国の大学で推進されましたが、その後、専門教育との接続性を考えて学士課程教育全体の改革につなげようとする試みが行われてきました。これらの試みの中で成功例と呼べるものは必ずしも多くは見られません。大阪大学の取組は、一学部内に止まるにせよ、数少ない成功例として貴重なものだと考えられます。</p> <p>幅広い教養と専門知識を与えることが望まれる現代における理学教育の問題点を的確に拾い上げ、学部一体となって社会の要請に応える取組を推進しているところは高く評価できます。各学科がバラバラの教育を行いがちな現状にあつて、大阪大学理学部は、一体感のある模範的なプログラムを提供していると考えられます。特に、ミニマムカリキュラムの概念を生み出し、学部全体としてバランスの取れた教育体制を整備した点は優れていると考えられます。</p> <p>全国の大学の模範となり得る取組であると考えられます。</p>			